

2021年度

岐阜県青少年赤十字

研究推進モ二夕一校活動事例集



 **日本赤十字社** 岐阜県支部
Japanese Red Cross Society



2022年は青少年赤十字は創設100周年

目 次

はじめに

岐阜市立鶉小学校	… P.	1
岐阜市立長森西小学校	… P.	2
各務原市立那加第三小学校	… P.	3
瑞穂市立西小学校	… P.	4
大垣市立時小学校	… P.	5
海津市立西江小学校	… P.	6
垂井町表佐小学校	… P.	7
神戸町立南平野小学校	… P.	8
美濃市立美濃小学校	… P.	9
美濃市立藍見小学校	… P.	10
郡上市立牛道小学校	… P.	11
郡上市立大中小学校	… P.	12
土岐市立妻木小学校	… P.	13
恵那市立大井第二小学校	… P.	14
中津川市立下野小学校	… P.	15
下呂市立竹原小学校	… P.	16
岐阜市立中央中学校	… P.	17
岐阜市立岩野田中学校	… P.	18
各務原市立緑陽中学校	… P.	19
山県市立伊自良中学校	… P.	20
池田町立池田中学校	… P.	21
恵那市立恵那西中学校	… P.	22
恵那市立恵那北中学校	… P.	23
飛騨学園高山西高等学校	… P.	24
県立揖斐特別支援学校	… P.	25

<表紙の写真 キックオフの会の様子>

- ◆ 上の写真 恵那市立大井第二小学校
学校歯科医による歯肉炎チェック
- ◆ 下の写真 池田町立池田中学校
スペイン出身の講師の方からお話を聴く

はじめに

青少年赤十字では、子どもたち一人一人が「人道」「博愛」の心を大切に、人類の幸せや世界のために尽くせるような人間になるための取組として、『健康・安全』、『奉仕』、『国際理解・親善』の3つを実践目標として掲げ活動しています。

多くの学校現場においては、上記の実践目標と重なる内容の学校経営や教育実践が進められていると思います。日本赤十字社岐阜県支部におきましては、それらの活動を支援させてもらうと共に、子どもたちに青少年赤十字で大切にしていることを身に付けてもらえることを目的に、例年、研究推進モニター校の募集を行い、応募校の中から25校を指定し支援させていただいています。

本年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため通常の学校運営ができず、当初計画していた内容が十分にできない状況でした。しかし、そういった状況にも関わらず、各研究推進モニター校においては、創意・工夫をしながら**健康・安全、奉仕、国際理解・親善**といった内容と関わらせながら研究実践を推進していただきました。

また、子どもたちが活動する際には「気づき」、「考え」、「実行する」という青少年赤十字の態度目標を意識して、人道・博愛の精神を具現化する取り組みにも努めていただきました。

本事例集では、子どもたちが多くの人と出会い、学び、様々な体験や発見等を通して、豊かな心を育み、たくましく成長していく実践が綴られています。豊かな心とたくましさを身につけた子どもたちが、これからも人道、博愛の精神をもち、様々な場で活躍してくれることを願っています。

この事例集が、多くの学校において「豊かな心を育む教育活動」推進の一助となれば幸いです。

本事例集をまとめるにあたり、貴重な実践成果をご紹介いただいたモニター校の校長先生方にお礼を申し上げますと共に、ご多用の中、原稿の執筆等にご協力いただきました先生方には心より感謝を申し上げます。

令和4年 4月 1日

岐阜県青少年赤十字指導者協議会
日本赤十字社岐阜県支部

1 岐阜市立鶉小学校

学 校 名	岐阜市立鶉小学校（校長 小出 直弘）
活動の種類・単位	命を尊重し、いじめや差別、偏見のない日常となるよう児童・保護者・地域が連携して取り組んだ。
教育課程上の位置付け	特別活動

1 活動テーマ

自分も相手も大切に思う気持ちを育み、自分にできることを考え、自分の成長を自覚し、家庭や地域に発信する。

2 主な活動内容

(1)大河内祥晴さんによる「いじめについて考える会」の講演

6月、大河内祥晴さんを招聘し、6年全員と学校運営協議会委員、PTA家庭教育学級生等を対象に、『いじめについて考える会』を開催した。大河内さんの息子の清輝さんに起きた辛い出来事や、大河内さん家族の思いに触れることで、誰もがいじめのない学校にと願いをもつことができた。保護者の方からも、子どもの幸せを願う親の気持ちについて語っていただき、命は自分だけのものではないと実感することもできた。



▲講演会の様子

(2)気づき、考え、実行する学級活動

講演後、6年各学級でいじめをなくすためにできることを考え、話し合った。いじめの当事者だけではなく、傍観する態度や無関心な態度もいじめを助長することになると気づき、自分の学級の状態を見つめ直した。そして、いじめを未然に防ぐためには、されて嫌なことはしないなど、自分事に置き換えて考えることの必要性に気づくことができた。



▲気づき、考え、実行する学級活動

(3)全校に活動の輪を広げる児童会活動

学級活動後、児童会執行委員が中心となり、いじめをなくすことができるように「あったか鶉っ子宣言」を行うよう全校に啓発した。児童会からの働きかけを機に、各学級がいじめについて真剣に向き合い、実践していく内容を宣言用紙に書いて、皆で取組んだ。

(4)よりよい学校を皆で目指す人権週間

11月、人権週間の前に6年全学級で大河内さんのメッセージを受け止めた行動ができているか振り返る時間を設けた。さらによりよい学校にするには、互いの違いを理解し合ったり、よさを認め合ったりすることが必要だと実感した。人権週間では、児童会執行委員が全校に人権について放送で発信し、仲間のよさを見つけてほめあう『ほめほめシャワー』の活動を啓発し、全校で取り組むことができた。

子供たちに付いた力	命は尊いものであり、誰一人悲しい思いをすることのないよう、一人ひとりが日常の言動を見つめ、考え、よりよく行動していくことの大切さを実感した。
効果	春の頃と比べ、秋・冬になるにつれて、いじめや問題行動が減少してきた。人との触れ合いを通じて、他者のよさを実感し、思いを伝え合える姿が育まれつつある。
今後の方向	今年度で青少年赤十字の取組が15年という節目を迎えた。さらに、気づき、考え、実行していくことで、自分の学級や、学校、地域をよりよくしていきたいと願いをもち、身近な生活に関心をもち、よりよく働きかけていくことのできる児童を育てていきたい。

2 岐阜市立長森西小学校

学 校 名	岐阜市立長森西小学校（校長 大西 一隆）
活動の種類・単位	共生を意識した、福祉につながる体験学習
教育課程上の位置付け	総合的な学習の時間

1 活動テーマ

「守ろう地域 広げよう福祉の輪」

本校の校区は、高齢者が身近で、学校に関わってくださる方も多い地域である。人生の先輩方である高齢者の方々について知り、触れ合うことで、誰もが住みやすい地域社会について啓発を図る。

2 主な活動内容

身近な存在でありながら、関係が希薄となっている高齢者を知ることで、お互いが気持ちよく暮らせる関わり方や社会の在り方を考えた。本来なら、高齢者との交流を仕組むところだが、昨今の感染症対策から、学校での体験学習のみとなった。

・『高齢者 認知症サポート講座』

地域の社会福祉士の方を招いて、認知症サポート講座を受講した。人間は誰も老いをむかえ、体の変容していく。講座では、認知症の脳の状態の説明を聞いた後、認知症の高齢者がどういった思考や誤解に陥ってしまうのか、寸劇を交えて学習した。認知症を正しく理解し、適切な接し方を知ることで、幸せに暮らせる社会につながることを学ぶことができた。

・『ユニバーサルデザインを学ぼう』

市の生涯学習推進係の方を講師に、ユニバーサルデザインについて学習した。国語科の学習で、身のまわりのユニバーサルデザインについて、大まかに理解していた子どもたちではあったが、デザインの意図を知り、社会にあるデザインを探す活動を通して、本当に必要なのは、偏見のない思いやりの心（心のバリアフリー）であると気付くことができた。

・高齢者体験活動

梱包材を使用した眼鏡、軍手、ペットボトルに水を入れた重り、関節を固定する新聞紙。以上の装備をすることで、高齢者の体の状態を体験した。新聞を読んだり、文字を書いたり、階段を移動したりして、思うままにならない足元や指先を体感し、「こんなに大変なのか。」「がんばって生活しているのだなあ。」など、高齢者の暮らしに思いをはせた。さらに、安心してもらえる支え方や声のかけ方の支援法を考え、お互いが気持ちよい関わり方について話し合った。そして、高齢者だけでなく、だれとでも、バリアフリーの心でつながることの大切さを学ぶことができた。



▲認知症サポーター養成講座

子供たちに付いた力	高齢者の方々について正しく理解することができた。また、声のかけ方など、お年寄りに対してだけでなく、お互いに気持ちよく接することの大切さに気付くことができた。
効果	「ユニバーサルデザイン」をイメージではなく、具体性をもって捉え、自分たちの身近な生活において、ハード面だけでなくソフト面においての大切さを実感できた。
今後の方向	広い視野で、自分と仲間、地域、世界を見つめ、自ら行動できる力の育成を目指して、学年の発達に応じた、福祉活動・奉仕活動・交流活動・環境保護活動を推進する。

3 各務原市立那加第三小学校

学 校 名	各務原市立那加第三小学校 (校長 加藤 浩幸)
活動の種類・単位	歯科保健活動を、学校歯科医や家庭と連携して行った。
教育課程上の位置付け	特別活動、その他(昼休み、冬季休業)

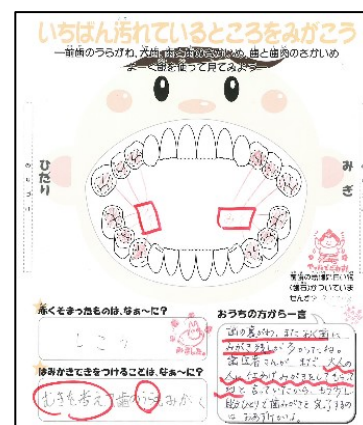
1 活動テーマ

自身の健康に興味関心を持ち、生涯を通して健康を保持増進できる態度を養う

2 主な活動内容

(1) 冬休み親子歯みがき(全校児童)

学校にて集団で歯垢染め出しを行うことができないため、個包装のプラークテスターを購入し、冬季休業中の課題とした。児童からは「自分は右の奥歯が苦手だから注意して磨きたい。」と、保護者からは「小学生になり、歯みがきを子どもに任せていたが、たまに仕上げ磨きをしてあげようと思った。」等の感想があった。



▲ 冬休み親子歯みがきのワークシート

(2) 個別ブラッシング指導(ハイリスク児童)

歯科検診で歯垢・歯肉炎が要精密検査と診断された児童 68 名のうち、希望者 24 名を対象に個別でブラッシング指導を行った。児童と養護教諭のマンツーマンで、ブラッシング、歯垢染め出し、赤く染まった様子を撮影、ブラッシングの手順で複数回実施した。過去の写真と比較しながら指導することで児童自身が口腔の特徴とみがき方の癖に気付き、ブラッシング方法を改善することができた。

(3) 学校歯科医、歯科衛生士による歯みがき教室(3年生)

学校歯科医、歯科衛生士を講師に招き、3年生対象に歯みがき教室を行った。例年は歯垢染め出し活動を行っているが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から内容を「むし歯のできた」「歯のケガの対処方法」「あいうべ体操」変更した。



▲ 学校歯科医による講話の様子

(4) 教職員救急救命講習

夏季休業中に消防職員を講師に招き、全教職員を対象に救急救命講習を受けた。食物アレルギー、誤飲、AED使用方法等について実技を交えて教わった。本校には担架が1台しかなく、設置場所も教室がある校舎とは離れた保健室だったため、助成金で担架を購入、設置した。

子供たちに付いた力	歯科保健活動を通して、児童が自らの健康の大切さについて主体的に考えることができるようになった。
効果	<ul style="list-style-type: none"> ・学校歯科医や歯科衛生士の専門的な見地から指導を得ることで、正しい知識を習得するとともに歯と口の健康づくりへの意欲を高めることができた。 ・歯垢染め出し、ブラッシング指導を繰り返す行することで、児童自身が歯みがきの課題に気付き、解決しようとする力が身についた
今後の方向	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭、学校医との連携や、健康診断結果の活用を行い、指導効果を高める。 ・新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮した保健教育活動のあり方を模索する。

4 瑞穂市立西小学校

1 活動テーマ

学 校 名	瑞穂市立西小学校 (校長 辻 治彦)
活動の種類・単位	自然災害に備えて、命と生活を守る方法を考えた 5年生児童を中心に、ゲストティーチャーを招いて学習をした
教育課程上の位置付け	総合的な学習の時間

「地震・防災」自分・家族・地域の人たちの命を守る方法を考えて実践する

2 主な活動内容

- ①私たちが住む瑞穂市で予想される自然災害について知ろう (4月 5年生)
 - ・東京海上日動保険の出前授業(水害・土砂災害編、地震・津波編の2講座)を実施した。これらの自然災害発生の仕組みを知り、どんな被害が起こるのかを学んだ。
- ②大地震発生時の危険を見つけよう(9月 5年生)
 - ・岐阜大学 清流の国 防災減災センターの村岡治道先生の出前講座を実施した。大地震発生直後の被害の実情について映像を通して学び、教室と図書室を例に大地震発生時の危険個所とその対策を予想することを通して身近な危険への対策を考えた。
- ③被災時の生活を考える (9月 5年生)
 - ・名古屋学院大学の学生考案の「避難バックゲーム」を使って、被災により生活が壊された後に避難所を利用することになったとき、どんな日用品が避難生活を支えるものになるのかをゲームを通して被災時の生活を考えた。
- ④避難所生活を実際に体験してみよう (10月 5, 6年生)
 - ・被災時に実際に避難所となる西小学校体育館を使用して、体験を通して避難所生活の不便さや身近なものを利用して緊急事態に対応する手立てを学んだ。そして、災害時であってもできる限り自宅で生活を維持するために、普段から何が必要なのかを考えた。

瑞穂市の災害対策を受け持つ市民協働課職員や災害ボランティアのNPO代表、各町内会役員や消防署員に日本赤十字社岐阜支部員と幅広い講師を招いて指導を受けた。避難所の設営や簡易炊事、火起こし体験や初期消火訓練に救急処置など、子どもたちは多様な体験学習をした。



▲体育館で避難テント組み立て



▲炊き出し訓練で夕食づくり



▲三角巾の使い方を学ぶ

子供たちに付いた力	・日常から災害に備える心と危険を予知する視点 ・防災や被災時の生活に対して、子ども一人一人が自らの力でできそうなことに取り組んでいこうとする意識
効果	実生活の中で、自分の力で防災・減災に向けてできることを考える子どもたちが育った。
今後の方向	持続的に継続実施できるよう、活動内容や規模を検討していく。

5 大垣市立時小学校

1 活動テーマ「ふるさと時」のかがやき(魅力)を発信しよう

学 校 名	大垣市立時小学校 (校長 片田 裕子)
活動の種類・単位	奉仕活動を、全校児童が、異年齢の縦割り活動を中心として、保護者・地域と連携して取り組んだ。
教育課程上の位置付け	生活科・総合的な学習の時間・特別活動

2 主な活動内容

(1) 地域とつながる花づくり

①校庭の花壇で育てた花を鉢植えにして、手紙を添えて、校区の高齢者のお宅に届けている。地区ごとに縦割り班をつくり、4月の『春の使者』ではパンジーやビオラの花を、9月の『秋の使者』ではサルビアやマリーゴールドなどを届けて交流している。



▲秋の使者

②6月には、地域の方々に手ほどきをいただきながら花の芽をポットに移し替える活動を行った。その後、成長した苗を、学校の花壇や校区の10地区の花壇にも植え、保護者や祖父母と一緒に大切に育てている。「仲間づくり委員会」の子ども達を中心に笑顔になってほしいと毎日の水やりや草取りに取り組んでいる。



▲ポットづめ



▲地区花壇

③1年生の生活科では、5月に、種をまいた朝顔の芽を保育園の子にプレゼントした。保育園でその朝顔を育て、夏には咲いた花を使って色水づくりに挑戦し、7月には1年生の子ども達も招待されて一緒に遊んだ。



▲保育園へ朝顔のプレゼント

(2) 地域のかがやき(魅力)発信

「ふるさと時」の良さを「豊かな自然」「石器時代からの長い歴史」「町づくりの取組や多様な文化」の三つのカテゴリーに分け、時地区の人々の思いや願いを受け止めて自分のできることを考えている。

①『長範みそ』や『時そば』づくりに携わる方々との交流を通して、時の自然と歴史を活かした新しい文化が創られていることや、水力発電やバイオマスエネルギー等が活かされている取組を学んだ。100年前に作られた水力発電が、時山の地形や自然を活かした再生可能なクリーンエネルギーを生み出す〔自然+歴史+SDGs〕ことや、地域の伝統や環境を活かし、みんなで協力して町を活性化したいという思い〔自然+文化〕を受け止めた。そして、自分のできることや考えを発信する『感謝の会』を計画した。



▲時そば脱穀



▲くらしぶりの紹介



▲長範みそづくり

②縦割り班に分かれて行った『時地区のオリエンテーリング』では、時地区の魅力を実感した。地域の方々から神社や施設の説明を聞いたり高学年がガイドをしたりして、多様な考え方を



▲時地区の魅力を伝える『かがやきマップ』の作成

受け止め興味を高めることができた。

子供たちに付いた力	時地区の自然・歴史・文化の素晴らしさを実感し、その魅力を自分の言葉で伝える活動を通して、時の地域を誇りに思い、社会に役立つ人になりたいと目標をもって取り組むことができた。
効果	異学年の仲間や地域の方々との交流を通して、相手の気持ちを考え、伝統や取組の良さや価値を実感し、自分のできることを見つめることができた。
今後の方向	コロナ禍ではあるが、子ども達が自分の課題解決に向かって活動できるよう工夫する。体験を通して実感した人々とのつながりを、次の活動意欲につなぐ。

6 海津市立西江小学校

学 校 名	海津市立西江小学校 (校長 安井 睦子)
活動の種類・単位	健康・安全についての活動を、全校児童が取り組んだ。
教育課程上の位置付け	特別活動、その他 (休み時間、掃除の時間、下校の時間等)

1 活動テーマ

自他の「いのちと健康」を守るために、考え行動する児童の育成

2 主な活動内容

(1) コロナウイルス感染症や熱中症について学ぶ

4月の全校朝会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のためオンラインで行ったが、昨年度に引き続き子どもたちに自分自身で命を守るためにも、養護教諭を中心として全校児童を対象としてコロナウイルス感染症について学ぶ機会を設けた。

低学年の子どもたちにとっても対策を分かりやすく説明するため、「ウイルスに負けないジャー」というキャラクターを提示して、「手洗い・しょうどくレンジャー」「すいとうレンジャー」「マスクレンジャー」「元気レンジャー」「思いやりレンジャー」の5人を味方にし、それぞれの習慣を一人一人が身に付けて健康に過ごすことができるように指導した。



▲「ウイルスに負けないジャー」の掲示

(2) 年間を通しての「ミニ防災訓練」の実施

「災害は 忘れた頃に やってくる」という言葉があるが、本校ではいつ地震や洪水に見舞われても自分自身の命を自分で守ることができるように、月に1回の「ミニ防災訓練」を行っている。合言葉を「あおあし (『安全な場所で』『落ち着いて』『頭を守って』『しゃがむ』の頭文字)」とし、一年生でも覚えることができるように工夫して取り組んでいる。



▲ミニ防災訓練の様子

火災のときの避難経路の確認から始まり、防災頭巾やライフジャケットの素早い身に付け方や、休み時間や掃除中等に地震が起きたときの訓練も行っている。

(3) 地域と連携した「安全マップ確認下校」の実施

6月に防災の専門家を招聘して6年生がD I G (災害図上訓練)を行い、そこで学んだことを活かして7月に「安全マップ確認下校」を行った。PTAの地区委員 (校外生活指導委員) や毎日の登下校の「見守り隊」の方、警察の方と一緒に通学路を歩きながら、いつ起こるか分からない地震に対して状況に応じて、どのように対処したらよいかを自分たちで考えた。



▲地域の方と安全を確認する下校

この取組を通して、登下校中でも子ども自身が正しい判断をして命を守ることができるようにしている。

子供たちに付いた力	一人一人が健康に配慮するとともに、安全面にも気を付けて生活する力が付いた。
効果	ウイルスへの感染拡大防止対策を徹底して行ったため、感染者は一人も出なかった。
今後の方向	引き続き感染の状況を注視しながら、これまで積み重ねてきた対策を確実に進行。

7 垂井町立表佐小学校

1 活動テーマ「まもろう わたしのいのち みんなのいのち」

学 校 名	垂井町立表佐小学校 (校長 伊藤 英宣)
活動の種類・単位	健康安全・全校
教育課程上の位置付け	特別活動 (学級活動、学校行事)

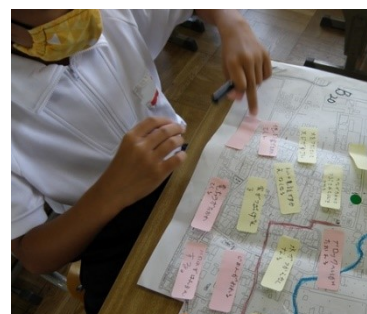
防災に関する授業や活動を工夫して行うことで、自然災害（地震、風水害）における児童の防災意識を高め、自分の命や仲間の命をまもるために必要な知識や行動を身につける。

2 主な活動内容

本年度、赤十字研究推進モニター校として活動するにあたり、防災士 伊藤三枝子先生（清流の国ぎふ女性防災士会 会長）に年間を通して指導していただいた。学年に応じた防災の授業や防災講演会を実施したり、地震を対象とした命を守る訓練の見直しを行ったりした。

(1) DIG (災害図上訓練) 5, 6年生 7月3日 (土) 実施

地震を対象とし、登下校の時間を想定した。コロナ禍であるため防災士の伊藤先生には別室からオンラインで画面を通して指導していただいた。児童は一人1枚の地図でDIGを行った。始めに、2021年は濃尾大震災130年という節目の年であり、当時は垂井町も大きな災害に見舞われたことを学んだ。児童は、自分の登下校の道のりが載っている地図を見ながら、もし大きな地震があったら何が起るかを考えた。ブロック塀の倒壊や交通の混乱を予想し、自分の身を守ったり、被害を少なくしたりするために必要なことを考えたりして交流した。



▲DIGの様子

後日、通学班の話合いの場では、登校班の班長や副班長として下級生に危険な場所や地震時に避難するとよい場所について伝えることができた。

(2) 大地震を想定した命を守る訓練 11月18日 (木) 実施

「放送機器が使えない」「通常の避難経路が使えない(2カ所封鎖)」「移動中に余震が起きる」ことを想定し、訓練を実施した。児童も教師も臨機応変に事態に対応することの大切さや命を守るための工夫について考えることができた。



▲避難途中、余震から身を守る

防災士の先生からは、大地震を想定した時、頭だけでなく落下物から首や背骨も守ることが大切であり、それには「ランドセル」の使用が有効であることを教えていただいた。そこでこの訓練では、防災頭巾の他に、ランドセルを背負って避難した。避難中、余震の合図で、児童はランドセルを使って首から背中を守った。全校の振り返りでは、ランドセルは登下校中の地震にも、身を守るために使うことができることを確認した。



▲防災に関する講演会

また、この訓練の1週間前には、防災士の先生から、低・中・高学年に分けて防災に関する講演会を行っていただいた。教師も児童も訓練に課題をもって、取り組むことができた。

子供たちに付いた力	地震はいつでもどこにいるときに起こるか分からない。命を守るために自分ができることは何か真剣に考え、できることを実行しようとする力を身に付けることができた。
効果	この1年間、「いのちをまもる」ことについて、キックオフの会をスタートに、年間を通して全校で取り組んだことで、教師、児童ともに防災・減災について意識が高まった。
今後の方向	今後も防災教育を進め、命の尊さが分かり、自分の命も仲間の命も大切にすることができる児童の育成を推進する。

学 校 名	神戸町立南平野小学校 (校長 中野 由美)
活動の種類・単位	「健康・安全」 「奉仕」
教育課程上の位置付け	特別活動(学校行事・学級活動) 総合的な学習の時間

1 活動テーマ

体験活動を通して、生命の大切さ、思いやりや助け合いの心を育成する。

2 主な活動内容

(1) 防災訓練 (健康・安全)

「命を守る訓練」の見直しを行った。地震や火災の際の避難訓練を毎年行っているが、これまでとは「想定を変えた訓練」に改善していくことで、児童一人一人が「自分の命を自分で守る」意識をより強く持てることをねらった。

- ・放送機器が使えなくなった場合の訓練
- ・休み時間や掃除時間等、教師や学級の仲間が近くにいない場合の訓練
- ・特別教室からの避難等、普段と違う経路を使う場合の訓練
- ・水害発生時の垂直避難訓練 ・不審者の侵入経路を例年と変えた訓練 等

これまでとは想定を変えた訓練を行うことで、児童はその場その時の状況を自分で考えて判断し、回を重ねるごとによりよい行動をとろうとする姿が見られるようになってきた。基本の繰り返しの大切さと同時に、いつもとは違う状況の中でも「想像力を働かせて、自分で判断して行動する力」を重視し、来年度もさらに工夫・改善した「命を守る訓練」を実施していく計画である。



▲想定を変えた命を守る訓練

(2) 募金活動 (奉仕)

4年生児童が総合的な学習の時間に「環境」をテーマにした学習を行っている。環境学習の中で「ペットボトルキャップがワクチン支援になる」ことを知り、全校児童や家庭に働きかけ、回収活動を行う取組を2学期からスタートさせ、継続している。

PTAが行っている「アルミ缶・牛乳パック回収」の活動日に合わせて全校児童に協力を呼びかけ、毎回多くのキャップを回収している。回収日にはPTA役員と共に、4年生児童が「エコリーダー」として意欲的に回収を行っている。また、学年ごとの回収ボックスを製作し、日常的にも回収を行っている。業者に買い取ってもらい、換金して赤十字に寄付するには量的にまだ少なく、来年度への継続取組としている。現4年生と来年度の4年生がエコリーダーとなり、全校的な取組としてさらに拡大していきたいと児童は考えている。



▲全校の仲間へ 回収の働きかけ



▲エコリーダーとして活躍する4年生

子供たちに付いた力	<p>【防災訓練】「自分の命を自分で守る」ために、その場その時の状況を考え、よりよい判断をして、今とるべき行動をする力。</p> <p>【募金活動】「困っている人たちのために、自分たちにも出来ること」を考え、実行に移したり、協力したりする力。</p>
効果	<p>・「自分(たち)に出来ることを考え、実行する。」という意識をもち、それが姿として少しずつ見られるようになってきた。仲間やまわりの人たちのために、自ら「気づき・考え・実行する」力をさらにつけていきたい。</p>
今後の方向	<p>・児童の主体的な活動・取組をより活発にしていく。児童会委員会活動の在り方も見直し、動き出しを始めている。「健康・安全」「奉仕」に関わる内容についても、児童が自分たちで出来る活動を考え、全校で取り組んでいく、という形で進めていく。</p>

9 美濃市立美濃小学校

学 校 名	美濃市立美濃小学校 (校長 家田 陽介)
活動の種類・単位	誰もが幸せに暮らせる社会をめざして、福祉体験や清掃活動に取り組んだ。
教育課程上の位置付け	総合的な学習の時間

1 活動テーマ

身近な人の思いを知り、誰もが幸せに暮らせる社会にするために、自分にできることを見つけて、取り組もう。

2 主な活動内容

(1) 福祉体験

5年生は総合的な学習の時間に「思いやりの心」をテーマに、福祉学習に取り組んでいる。毎年、5年生が校区にある障がい者福祉施設を訪問し交流を行っているが、今年度はコロナウイルス感染対策のため、実施することができなかった。そこで、社会福祉協議会から、「アイマスク」「白杖」「妊婦キット」「高齢者キット」を借りて、校内で視覚障がい体験・妊婦体験・高齢者体験を行った。見ることに障がいのある人や妊婦・高齢者は生活の中にどんな不便なことがあるのか見つけ、みんなが過ごしやすい社会にするために、自分たちにできることを考えた。

(2) 地域の清掃活動

4年生は総合的な学習の時間に「住みたい町づくり」をテーマに、環境学習に取り組んでいる。

生活の中で環境を守るためにできることとして、リユース・リサイクル・リデュースについて学び、さらに、自分たちの地域を美しくするためにできることとして、地域の清掃活動に取り組んだ。長良川の河川敷や、地域の人が多く集まる「小倉公園」、観光客の集まる美濃町の3ヶ所に出かけ、ごみ拾い等の清掃活動を行った。活動する中で、夏に多くの人の集まる長良川河川敷には、思った以上に多くのごみが捨てられていることに気付いた。ごみを持ち帰ることの大切さや、リサイクルに積極的に参加してごみを減らしたいという気持ちを高めた。



▲視覚障がい体験



▲清掃活動



▲清掃活動

子供たちに付いた力	<ul style="list-style-type: none"> 福祉体験を行ったことで、高齢者や障がいのある人の不便さに気付き、相手を思いやって接することの大切さに気付くことができた。 清掃活動を通して、リサイクルやごみを持ち帰るなど、身近にできることを一人一人が行っていくことの大切さに気付くことができた。
効果	<ul style="list-style-type: none"> 自分の視点ではなく、相手の置かれている立場や状況を考えて行動することに大切を学ぶことができた。 地域を大切に守ろうという心が育ってきた。
今後の方向	<ul style="list-style-type: none"> 人の気持ちを考え、寄り添って生きていく子をめざす。 自分にできることを考え、実践していく子をめざす。

10 美濃市立藍見小学校

学 校 名	美濃市立藍見小学校 (校長 宇佐見 雅子)
活動の種類・単位	「防災」「福祉」をテーマとして、主に地域と関わる活動に取り組んだ。
教育課程上の位置付け	総合的な学習の時間、特別活動、クラブ

1 活動テーマ

自信をもって かかわり合い 考え 努力する子

2 主な活動内容

◎命を守る訓練の実施

<4月> 新しい学級の教室からの避難経路の確認

<9月> 休み時間に災害が発生した場合における避難の在り方

<1月> 登下校時に災害が発生した場合における避難の在り方

◎地域の高齢者や特別養護老人ホームの方々と交流しよう <全学年 総合的な学習の時間等>

<地域の高齢者の方々に向けて>

思いやりのある、ふさわしい言葉や絵を考えながら、絵はがきを書いた。送った絵はがきに対して返事をいただいた方には、もう一度手紙を書いてやり取りを行った。

<特別養護老人ホームの方々に向けて>

直接会えない中でも、相手に喜んでいただけたたり元気になっていただけたりするのために、自分たちにできることは何かを各学年で考え、手紙やプレゼント(育てたへちまから作ったたわし等)を贈った。また、合わせて、そこで働いている方へも感謝の気持ちを伝えた。

◎地域講師の方々と一緒に学ぼう

<野菜づくり : 1・2年生…生活科, 5年生…総合的な学習の時間>

地域講師の方々に、サツマイモやきゅうり、枝豆等の植え方・育て方を教えていただいた。

<河川の生き物 : 4年生…総合的な学習の時間>

地域講師の方々に、環境の変化による生き物の変化や絶滅危惧種「ウシモツゴ」の生態・飼育方法、学校付近の河川の水質検査、生き物調査等について教えていただいた。

<お花・読み聞かせ・パソコン : 4・5・6年生 クラブ>

クラブの時間に地域の方々を講師として招き、専門的な知識や技能を教えていただいた。



【地震と火災を想定した命を守る訓練】

【特別老人ホームの方々にプレゼント渡し】

【地域講師の方と一緒にサツマイモ掘り】

【地域講師の方と一緒に枝豆の収穫】

子供たちに付いた力	○災害時に、自分や周りの人の大切な命を守る方法について、理解が深まった。 ○弱い立場の方の気持ちを考えたり、その人たちのために自分にできることを考えたりする力、地域の方々と関わり合う力等を伸ばすことができた。
効果	○災害時に、慌てず冷静に行動する心構えを身に付けることができた。 ○「地域の方々と関わる」ことによって、身近な人のために尽くそうとする心を育むとともに、身近な人に感謝する心を育むことができた。
今後の方向	○災害はいつ起きるか分からないことを前提に、様々な場面を想定した訓練を実施する。 ○今後も、地域の方々と関わり合う場を様々な形で設定することができるよう、上記の取組を継続するとともに、発達段階に合わせた関わりを工夫する。

11 郡上市立牛道小学校

学 校 名	郡上市立牛道小学校 (校長 大江 裕之)
活動の種類・単位	命を守る教育を、児童と地域・家庭が連携して取り組んだ。
教育課程上の位置付け	特別活動(学校行事)、総合的な学習の時間

1 活動テーマ

家庭・地域と連携し、児童が『自分の命は自分で守る』意識を高める防災教育

2 主な活動内容

本校は、郡上市白鳥町の周囲を山に囲まれ、生活道路は狭い上にたいへん入り組んだ道路状況であり、児童の生活上、そうした道路には危険が潜んでいることを危惧している。学校から遠方の2地区より、通学で登校する児童もいるという校区がたいへん広い学校である。そこで、児童が安全に登校できるよう、地域の方が自主的に『牛道見守り隊』を組織し、各通学班の登校時に同行していただいている。また、休日等に自転車のでかける児童もいることから、テーマに即した教育を行う必要があると考え以下のような実践を例年行っている。しかし、今年度はコロナ禍ということもあり、例年実施してきた活動や地域との連携は十分できていない。以下の内容はコロナ禍前までに実施していた活動である。

(1) 地域との連携による交通安全指導

各家庭において自宅近くや通学路の危険箇所を確認し、それを学校に報告した後、地区懇談会を実施。その際には、地区自治会長に参加を依頼し、報告された危険箇所の情報を共有することにより、危険箇所への対応を迅速に行っていただいている。

(2) 保護者による救急救命法講習会の実施

1年生保護者と5、6年生の児童が参加し、救急救命講習を実施している。AEDを使用して救急救命技能を身につけるとともに、学校が実施している防災教育の一端を1年生保護者に理解していただくようにしている。

(3) 総合的な学習の時間『ふるさとをたずねて』を通して、地域の高齢者と関わり、ふるさとを愛する心を育てる活動

総合的な学習の時間で学んだことを生かし、児童自身が生活している地区の公民館で、地域のシニアの方と交流をする活動を行っている。事前に高学年を中心に遊びの準備をしたり、自己紹介や歌の練習をしたりしている。多くのシニアの方と交流を図ることができ、児童にとってもたいへん貴重な場となっており、シニアの方からも感謝をいただいている。孫がみえなくても積極的に参加してくださったシニアの方も積極的に参加いただいているため、児童にとって、新しい方との出会いの場となり、地域の方との新しい関わりが生まれている。

(4) 地域のデイサービス施設を訪問しての交流活動

学校の近くに地域のデイサービス施設がある。たいへん多くの高齢者の方が施設を利用されてみえる。6年生の児童は、総合的な学習で「福祉」について学んでおり、学んだことを生かす場として、施設において「高齢者の方と交流会」を位置づけている。交流では、児童が高齢者の方の立場にたって、知恵を絞って作成した道具での遊びを通じて、適切なコミュニケーションが図られるようにしている。また、7月には、子どもたちの願いを書いた短冊のついた七夕の竹を届ける活動も行っている。

子供たちに付いた力	自分の命は自分で守る意識が高まってきた。また、登校時はもちろん、地域の方と出会ったときやシニアとの交流の場では進んで挨拶や会話ができる姿が増えた。
効果	教員の指導だけでなく、保護者や地域の方と複数回の関りをもつようにすることで、保護者と地域が一体となって児童を育てる環境が育まれている。
今後の方向	地域との交流活動が今後も発展的な取組となるよう、さらに工夫と改善を重ね、児童が自らの命を守る行意識を高めるとともに、ふるさとを愛する心情を育むようにしたい。

1 2 郡上市立大中小学校

学 校 名	郡上市立大中小学校 (校長 村瀬 眞実)
活動の種類・単位	命を大切にする活動、地域との連携を大切にする活動に取り組んだ。
教育課程上の位置付け	総合的な学習の時間

1 活動テーマ

ふるさと郡上(白鳥)を愛し、地域と共に生き、高まる学校

2 主な活動内容

(1) 生命を大切にする活動…防災トレーニング、命を守る訓練、親子AED講習

「自分の命は自分で守る」を合言葉に、防災教育の充実を図った。5月・6月は「地震災害への備え」、7月は「豪雨災害」、11月は「災害への備え」、12月・1月は「雪害」の内容を学習した。特に本校は土砂災害警戒区域に隣接しているため、命を守る訓練では「垂直避難」を実施した。

また、日本赤十字社岐阜県支部の講師による「親子AED講習」を行った。今年度も新型コロナ感染の影響で学校での水泳指導ができなかったが、川や海などでの水の事故に遭遇した際に、自信をもって救助活動ができるようになるため、親子でAED講習を学んだ。「自分の命は自分で守る」という意識を高めることができた。



▲ AED講習会の様子

(2) 伝統文化の継承…大神楽(5年生)

校区内には、地域で昔から行われている祭りがあり、「大神楽」が奉納されている。その伝統を継承しようと、4～6年生の総合的な学習の時間の学習計画に位置付けられている。今年度は新型コロナ感染の影響で「少年文化のつどい」での発表はできなかったが、地域の方を講師として招き、5、6年生を中心に「大神楽」の歴史、演奏の仕方、舞の仕方などを教えていただいた。今年度は学習発表会の場で5・6年生が「大神楽」を保護者や地域の皆様の前で披露した。



▲ 学習発表会での大神楽発表の様子

(3) 豊かな自然や地域の人とのふれあい(4・5年生)

総合的な学習の時間では、4年生の学習を「川とのかかわり」、5年生の学習を「山とのかかわり」から構成している。具体的には、4年生では「カワゲラウォッチング」、5年生では「森林の学習」「植樹体験」などを実施した。今年度は4年生で「森と木と水の環境教育推進事業」を通して、郡上市の保有林や木材加工工場の見学を行い、森林の役割や効果的な利用について学んだ。学習を進めていく中で、子どもたちは、地域の自然の豊かさと尊さに気づいていった。また、学習の講師として、地域の方にお世話になり、生活の知恵と共に地域の人たちのやさしさに接することができ、ふるさとへの愛着の高まりを見ることができた。

子供たちに付いた力	防災教育では具体的な状況を想定して自分の取るべき行動について考えること、ふるさと教育では地域のよさを感じることができた。
効果	「命を守る訓練」等、意欲的に取り組むことができるようになった。住んでいる地域のよさを認め、愛着をもつようになった。
今後の方向	学校教育と地域のコミュニティとの連携をさらに深め、ふるさと教育の充実を図りたい。

13 土岐市立妻木小学校

学 校 名	土岐市立妻木小学校 (校長 滝川 直樹)
活動の種類・単位	健康・安全 (もりもり健康委員会を中心に全校にて実施)
教育課程上の位置付け	朝活動の時間 (すこやかタイム)

1 活動テーマ

感染症予防のために取り組むべき点を理解し、自ら実践していこうとする意識・態度を育てる。

2 主な活動内容

<感染予防についての保健指導>

(目的)

・感染とは何かを知ることから、予防して健康的に過ごすための方法を知る。

現在、学校内で実施している感染予防の方法について、もりもり健康委員会(委員会)の児童が担当学級児童に説明をして確認する。

・感染症を予防するための方法を、自分から実践する意識を高め、行動できる態度を育てる。

教えてもらったことを、先生や仲間にならなくても、「自分の健康は自分で守る」ことが本物の力であることを、職員、委員会と一緒に取り組む。

(感染予防についての保健指導の流れ)

- ①始めに、学校で取り組んでいる感染予防の活動を、もりもり健康委員会の児童は、自分自身が取り組んでいるか確認する。高学年児童のリーダーとしての自覚を育てる。
- ②新しく始める感染予防に関する取組みについて、担当学級に説明をする。
(具体的な内容、なぜするのか、役割分担・説明練習等)
- ③なぜ、このような取組みをしていくのか理解し、進んで行おうとしているかを定期的に見届ける。



▲感染症について予防について



▲感染予防の保健指導

子供たちに付いた力	・自分の健康を守るための方法、活動を理解し、自ら実践しようとする意識・態度。
効果	・委員会を中心に、感染症予防のための活動を、学校全体として取り組めた。
今後の方向	・受動的に活動を継続するだけでなく、今後、社会の変化に柔軟に対応し、自ら考えて地域・家庭においても行動できるようにする。

14 恵那市立大井第二小学校

学 校 名	恵那市立大井第二小学校 (校長 西尾 浩余)
活動の種類・単位	健康安全：口・歯の健康 全校児童と家庭、学校歯科医が連携して取り組んだ
教育課程上の位置付け	特別活動(学活・委員会)、その他(歯みがきタイム、長期休業日)

1 活動テーマ

かしこく なかよく たくましく ～向学心～ 自己肯定感を育む歯と口の健康づくり

2 主な活動内容

(1) PMA 検査 ※ 粘る心を育む歯 を目指していくために行っている活動

年3回、4・5・6年生にPMA検査を実施した。学校歯科医による歯肉炎のチェックを行い、1人1人の口腔写真を撮影し、結果用紙に添付して、家庭に持ち帰り、保護者からコメントを記入してもらう。経年結果の比較ができ、個別に学校歯科医や養護教諭からの指導が行われ、劇的に口腔状態がよくなった児童が多くいた。保護者からも頑張りを感じるメッセージや今後の歯みがきに対する応援メッセージなど、学校と家庭が一緒になって、子どもの歯と口の健康づくりに取り組んでいくことができた。



▲PMA検査の様子

(2) 歯みがきタイムの実施と児童保健委員会による見届け

週1回の「にこりんタイム」では、フッ化物洗口とあいうべ体操を行った。また、毎日給食後にはコロナ感染予防対策を取りながら「歯みがきタイム」で、全校一斉に歯みがき動画を活用しながら歯みがきを行った。

その歯みがき動画は学校独自のもので、児童保健委員会が製作した「にこりんチャンネル」という歯科保健指導用動画で、学校のオリジナルキャラクター「にこりん」により、全校児童が関心をもてるよう工夫したものとなった。低学年を中心に反響が大きく、保健委員会の児童にとっても意欲向上につながった。



▲歯みがきタイムの様子

(3) 親子歯みがき活動

長期休みには、PTA家庭教育学級と連携し、「親子染め出し」「家族歯みがき頑張りカード」「歯みがきカレンダー」など、学校で大切にしている歯と口の健康づくりの取組を家庭でも継続できるよう活動を行った。どの家庭でも親子で実践し、長期休み明けには取組カードを提出することができた。

学校だけの活動でなく、家庭も巻き込み、子どもたちの生活のすべてにおいて、歯と口の健康づくりを行い、意識向上につながった。



▲歯みがきの取組カード

子供たちに付いた力	・主体的な活動と歯と口の健康についての意欲・関心が向上した。
効果	・児童のむし歯や歯肉炎の減少 ・児童による主体的な活動と歯と口の健康についての意欲・関心の向上
今後の方向	児童が楽しみながらも、主体的に歯と口の健康について学ぶことができる集団指導と個人指導の在り方を考え、ブラッシングを含めた自己管理能力を向上させていく。

15 中津川市立下野小学校

学 校 名	中津川市立下野小学校 (校長 二村 誠)
活動の種類・単位	奉仕 (福祉) 活動として、5, 6年生が地域と連携して取り組んだ。
教育課程上の位置付け	総合的な学習の時間

1 活動テーマ

下野花いっぱい作戦

2 主な活動内容

- 1 6年生による春の種まき (秋花壇づくりのため)。
- 2 苗を育てる。
- 3 学校花壇への定植。
- 4 地域花壇への定植。
明老会 (校区の老人会) の人たちと一緒に「生き生き会館、庚申様」の花壇への定植を行った。
- 5 レンタルプランターを地元の保育園や郵便局へ届けた。
- 6 一日花屋さんを実施し、育てた苗を、学校の児童、保育園の園児、地元の人々にお配りする活動を行った。
- 7 5年生による秋の種まき (春花壇づくりのため)。
- 8 苗を育てる。
- 9 学校花壇への定植。
- 10 地域花壇への定植。
前期と同様に、明老会の人たちと一緒に「生き生き会館、庚申様」の花壇への定植を行った。
- 11 レンタルプランター
- 12 一日花屋さん。
- 13 子ども110番の家へのお礼として鉢植えにした苗をお配りする。(3月実施予定)



▲ 生き生き会館定植

▲ レンタルプランター

▲ 一日花屋さん

子供たちに付いた力	責任をもってやり抜く力 自ら考え主体的に行動する力
効果	全校児童や地域の人々のために取り組むことで、思いやりの心とふるさとを愛する心が育った。
今後の方向	本校は来年度閉校を迎えるが、最後の年にふさわしい花作りの取り組みをしたい。

16 下呂市立竹原小学校

学 校 名	下呂市立竹原小学校 (校長 安田 幸典)
活動の種類・単位	大地震発生時に自ら考え行動できる力を育むシェイクアウト訓練
教育課程上の位置付け	特別活動 (命を守る訓練) その他 (休み時間・掃除時間・帰りの会)

1 活動テーマ

自ら考え、判断し、行動する児童の育成 ～シェイクアウト訓練を通して～

2 主な活動内容

◎月1回のシェイクアウト訓練と振り返り

- ・震度5以上の大地震に遭った際にも自分で考え判断し行動できることを願う取り組み。
- ・毎月1回1分間のシェイクアウト訓練と帰りの会における行動内容の交流を継続。
- ・「まもるいのち ひろめるぼうさい」を視聴教材として活用。
- ・「落ちてくるもの・倒れてくるもの・動いてくるもの」をキーワード。
- ・児童の不安感を意識して想定を変化。

①担任がいる授業時間+潜り込める机がある教室→②担任がいる授業時間+潜り込める机がない特別教室→③担任がいない掃除の時間→④担任がいない休み時間

- ・訓練の実際

4月30日	授業時間(通常教室)に地震 → 火災発生のため運動場へ避難(キックオフの会)
5月14日	授業時間(特別教室)に地震(1分間) → 帰りの会で振り返り
6月17日	掃除の時間に地震(1分間) → 帰りの会で振り返り
7月15日	掃除の時間に地震(1分間) → 帰りの会で振り返り
9月15日	掃除の時間に地震(1分間) → 帰りの会で振り返り
11月24日	休み時間に地震(事前通告なし・1分間) → 帰りの会で振り返り
12月15日	休み時間に地震(事前通告なし・1分間) → 帰りの会で振り返り
1月17日	授業時間に地震(事前通告なし・1分間) → 運動場へ避難
2月15日	掃除の時間に地震(1分間) → 帰りの会で振り返り



▲ 自ら考え行動した姿 (左: ランドセルで背中を守る 中: 椅子で頭を守る 右: バケツで頭を守る)

自他の生命を守るため、「マスク着用」や「手洗い消毒」と同じように「換気」が重要視されている。言われて換気をするのではなく、自分から考え、進んで換気するためには「CO₂」の可視化が必要と考え、二酸化炭素濃度計を全教室に設置した結果、子供たちは進んで換気をするなど自分たちの健康安全に気を配れるようになった。



▲CO₂ 測定器を活用して測定

子供たちに付いた力	・「落ちてくるもの・倒れてくるもの・動いてくるもの」を自ら見分ける力
効果	・自分の命を自分で守るために、自ら考える必要があることに気づいたこと。 ・「落ちてくるもの・倒れてくるもの・動いてくるもの」を確認することが日常化したこと。
今後の方向	・防災士など専門家の力を借りながら、この避難方法で本当によいのかを示したい。 ・大きな地震の際にどのような状況になるのかを起震車などを活用して実感させたい。 ・わずか1分間、されど1分間。1分間のシェイクアウト訓練を今後も継続したい。

(中学校)

17 岐阜市立岐阜中央中学校

学 校 名	岐阜市立岐阜中央中学校 (校長 上松 英隆)
活動の種類・単位	防災学習・第2学年
教育課程上の位置付け	総合的な学習の時間

1 活動テーマ

災害時に、地域の一人として、地域に貢献できる力を身に付けよう。

2 主な活動内容

① ふるさと学習(地域調べ)

- 地域の商店、公共施設、史跡等をめぐり、地域のよさを知るとともに、政治・経済・文化の中心地域としての特色を理解し、地域に対する愛着と誇りをもつことができる。

② 地域の消火施設調べ

- 「消火器オリエンテーリング」を通じて、校区にある消火器の位置や設置の背景を理解し、地域の火災に対する取組を実感することができる。

③ 防災講話 「水防にかかわる話を聴く」

- 水防団長さんの講話から、陸間の果たす役割を知り、長良川の氾濫から地域の生活を守るために、水防団として活動する人々の働きを理解することができる。

④ 避難所の設置

- 市役所の職員の方々の指導の下、防災倉庫にある仮設トイレや仮設テント等の設営方法を理解することができる。
- 非常食としてのアルファ化米の調理方法を理解することができる。

⑤ 避難所の設営 (HUG)

- HUGを行い、よりよい避難所の在り方について、意見を交流することを通じて、地域の様々な人々を配慮することができる。



▲ 仮設トイレの設置



▲自治会防災訓練での安否確認



▲避難所の設置

子供たちに付いた力	生涯を見通した、災害に生き抜く力
効果	自治会が主催する地域の防災訓練に参加し、学校で学んだことを生かして、テントの設営、人員確認等、地域の人々と共に進んで活動し、訓練の大切さを実感することができた。
今後の方向	2年生で防災学習を行い、地域に生きる一人として社会に貢献できる力と意識を培う。

18 岐阜市立岩野田中学校

学 校 名	岐阜市立岩野田中学校 (校長 樋田 光代)
活動の種類・単位	地域との関わりを通して、防災学習・奉仕活動に取り組む
教育課程上の位置付け	総合的な学習の時間

1 活動テーマ

夢や希望の実現のために 自ら動く 生徒の育成
 ～気づき、考え、実行する取り組みを通して～

2 主な活動内容

- 1 防災学習 (総合的な学習の時間1年)
 - ・地域の防災マップ作成
 - ➡新型コロナウイルス感染症感染防止対策の為、中止
 - ・「体育館が避難所になったら」
 - 仮設トイレ・パーテーション設置体験
 - 非常食体験
 - ワークショップ
 - ・命を守る訓練
- 2 地域清掃活動 (10月2日 全校生徒)
 - ・地域の公園等の清掃活動 (親子奉仕活動)
 - ➡新型コロナウイルス感



▲ 体育館でパーテーション設置体験



▲ 仮設トイレ設置体験

子供たちに付いた力	<ul style="list-style-type: none"> ・「体育館が避難所になったら」の体験学習を通して、防災を自分の事ととらえて考え・行動に移そうとする意識が高まった。
効果	<ul style="list-style-type: none"> ・防災について身近なものとしてとらえ、自分の考えを深めることや知識を深めることができた。また、学習したことをもとに、今後の生活にどうかしていくのかを考えることができた。 ・防災への意識や、地域を様々な角度から再認識する意識が高まる。
今後の方向	<ul style="list-style-type: none"> ・「防災学習」や「地域清掃活動」は、地域との関わりを大切にしながら今後も継続していく。また、地域の方と他の共同活動を推進したい。 ・「防災学習」については、地域の特性を考慮した防災 (土砂災害・浸水害) について学習していきたい。

19 各務原市立緑陽中学校

学校名	各務原市立緑陽中学校（校長 磯谷 浩二）
活動の種類・単位	福祉委員会と地区生徒会が連携し、全校生徒を巻き込んで地域の高齢者との交流活動を行った。
教育課程上の位置付け	総合的な学習の時間、その他(休み時間や放課後等)

1 活動テーマ

「フラワーエンジェル活動」～地域とのつながりを～

校区で一人暮らしをされている高齢者の方、地域の見守り隊やボランティア活動等で日頃お世話になっている方との交流活動を通して、地域とのつながりを大切にする生徒を育てていく。

2 主な活動内容

① 地域の高齢者の方に手紙を送ろう

7月に地域の高齢者およそ300名の方に手紙を書き、今後の交流活動への参加希望を募った。例年であれば、手紙は生徒手作りのメッセージカードを作成して自宅訪問をして直接手渡しをしていた。本年度は感染予防のため、往復はがきで作成し郵送した。

<生徒の手紙の例>

緑陽中学校の〇〇です。いつもいろんなとき、見守ってくださり、ありがとうございます。今年はみなさまに私たちから感謝の気持ちを込めて、花束を贈りたいとおもいます。この活動を通して、地域のみなさまとつながり、笑顔が広がることを願っています。12月まで楽しみにお待ちください。



▲感謝の気持ちや活動の紹介を手紙に綴り、参加募集の依頼をする。

② お花とメッセージカードを届けよう

お花とともに、クリスマスメッセージと花の絵を入れた写真立てを届ける企画を福祉委員会が計画し、地区生徒会と連携して運営を行った。生徒は地区ごとに分かれ、自分の地区に住む高齢者の方に手紙を書き、おりがみやイラストなど付けてメッセージカードに仕上げた。また、写真立てに入れる花の絵を募集したところ、30作品ほどの応募があり、使用させてもらった。

12月23日には、地区ごとに生徒達が集まり、一緒に下校して2～3軒のお宅を訪問した。お届けした方からは「毎年楽しみにしています。毎年いただいている花は今でもすべてありますよ。」「楽しそうに登校している姿を毎朝見えていますよ。勉強頑張ってるね。」「なかなか人と関われないときだから、来てくれてとても嬉しいです。」など、たくさんの温かい言葉をいただきました。

地域の方との交流でとても喜んでもらえ、お礼をいただいたことが嬉しかったという生徒の活動の振り返りから、ふれあいの充実感を味わうことができた様子が見えられた。また、地域の方との交流から、互いが尊重し、かかわり合うことの大切さを学んだり、地域の一員であることの自覚を育んだりすることができた。



▲メッセージカードと写真立て、お花を手渡す。

子供たちに付いた力	・発信力：人や地域との関わりの中で、仲間と考えをすり合わせて納得解を導き、自分の思(想)いを伝える。
効果	・「自分の取組が地域の方に喜んでもらえた」といった自己有用感を高めることができた。地域の所属意識を高め、愛着をもち、進んで挨拶できる生徒が増えている。
今後の方向	・この活動も20年ほどを迎え、本校の伝統となっている。相手意識を育み、「どのような交流がしたいか」「活動ができるか。」という話し合いを大切にしながら、生徒の主体性を生かした取り組みを、今後も大切にしたい。

20 山県市立伊自良中学校

学 校 名	伊自良中学校 (校長 伊藤 泰介)
活動の種類・単位	健康安全、奉仕 (福祉)
教育課程上の位置付け	特別活山県市立動、総合的な学習

1 活動テーマ

自他の命の大切さを知り、自ら考え動くことができる生徒の育成

2 主な活動内容

(1) 命を守る取組

本校では、自他の命の大切さを知り、自分がどのように動くことが命を守ることににつながるのかを考え学ぶ場として命を守る訓練を位置づけている。また、防災講座を設定し生徒の防災に関わる意識を更に高めるとともに知識も身に付けている。

5月に行われた小中合同引き渡し訓練では、地震発生を想定し、小中学生の保護者や地域、学校が連携して訓練を行った。生徒は自他の命を守ることはもちろん、災害時、家庭や地域へどんな貢献活動ができるのか考えることができた。



▲命を守る訓練

(2) 岐阜希望が丘特別支援学校とのふれあい活動

本校と岐阜希望が丘特別支援学校との交流事業は、30年以上続く大切なふれあい活動である。交流の中で互いを知り親交を深め、共に助け合う精神や相手を思いやる心を育ててきた。しかし、今年度新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、直接行う交流活動ができないう状況となった。

そこで、生徒会が中心となって考えを出し合い、今年度はリモートで交流活動を行うことになった。機材を準備し、両校の生徒や教師が何度もリモートで打ち合わせを行い、誰にとっても見やすく聞きやすいと同時に気持ちに通じ合えるような交流を企画した。当日は歌を一緒に歌ったりジェスチャーでゲームをしたりするなど、両校の生徒が共に楽しめる会をつくりあげることができた。



▲ふれあい活動

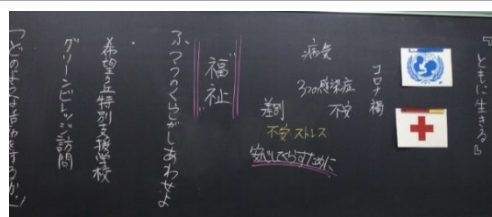
【生徒の感想より】

希望が丘のみんなとは直接会えないけれど、オンラインで交流することによって心を繋げることができました。言葉では伝えにくい部分もあったけれど、相手に伝わりやすいようにその場で考え、大きな声ではきはきとしゃべって、希望が丘の皆も伊自良中の生徒も楽しむことができました。

(3) 学級活動「ともに生きる」より

コロナ禍において、日本赤十字社が掲載している「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう」という資料を活用して、「社会貢献と自分にできること」というテーマで学級活動を行った。

話し合いの中では、日本赤十字の取組を例として示しながら、苦しむ人々を救うことの重要性や価値について生徒同士思いを共有することができた。また、授業の中では「安心して暮らせる社会をつくりたい」「社会に貢献できる人になりたい」等、前向きな言葉が多く聞かれた。



▲学級活動での板書

子供たちに付いた力	<ul style="list-style-type: none"> ・自他の命の大切さを理解し、状況を分析しながら適切な判断と行動をとる力 ・相手を思いやる心とやさしさ、一歩踏み出して行動できる力
効果	・学校や地域の一員としてできることを考え、訓練や交流活動に主体的に取り組むことができた。
今後の方向	・モニター校支援により通信機器の充実が図られ、リモートでの活動の幅が広がった。今後、様々な場面でリモートを活用した訓練や交流を充実させていきたい。

21 池田町立池田中学校

学 校 名	池田町立池田中学校（ 校長 伊藤 敦 ）
活動の種類・単位	国際理解・親善
教育課程上の位置付け	総合的な学習の時間

1 活動テーマ

活動名 『7物語(セブン・ストーリーズ)』 【第1学年】

異なる文化や歴史にふれ、国際社会への理解を深めるために、身近な地域に在住する外国出身者から話を聞く活動に取り組んだ。また、外国出身者の目から見た池田町のよさや魅力を伝えてもらうことで、自らが生まれ育つ町を見直す機会とした。

2 主な活動内容

(1) 活動の様子

11月26日、池田町をはじめ周辺の市町に在住する7名の外国出身者を講師に迎え、『7物語(セブン・ストーリーズ)』を行った。出身国の内訳は、アメリカ、スリランカ、ベトナム、バングラディシュ、スペイン、中国の6か国で、留学や日本企業への就労などで来日した人たちである。生徒たちは、その中から3名の話聞いた。初対面の講師を前に、はじめこそ緊張した面持ちだったが、徐々に打ち解けて笑みもこぼれた。そして、興味深く話を聞く姿が見られた。たとえば、スリランカには「シギリヤ・ロック」と呼ばれる巨岩があり、そこには古代の宮殿が築かれていた。いまも美しい壁画が残されており、ユネスコの世界遺産にも登録される。生徒たちは、「もっと知りたい」「将来行ってみたい」と関心をもったようだった。また、スリランカは紅茶の産地であり、茶畑が広がる池田町とよく似た美しい風景が広がっていることも学んだ。こうした日本とは違う世界の魅力的な様子を知るとともに、池田町との共通点にも気付くことができた。



▲ 講師の話聞く様子①（スリランカ出身）



▲ 講師の話聞く様子②（スペイン出身）

(2) 事前と事後の活動

『7物語(セブン・ストーリーズ)』を行う前には、講師の出身国について書籍やインターネットを使って調べ、学習に臨んだ。また、事後には一人ひとりが「かべ新聞」にまとめ、学習内容を振り返り、表現する活動にも力を入れて取り組んだ。

子供たちに付いた力	自分たちの生活環境や文化との違いに気付き、多様性を受容する資質を身に付ける。また、ふるさととのよさを再認識し、大切にしようとする心情をはぐくむ。
効果	世界の国々に関心をもった生徒が多く、自ら調べようとする姿が見られた。また、社会科や英語科などの教科において、本学習と関連付けて考える生徒もあった。
今後の方向	来年度も引き続いて、『7物語(セブン・ストーリーズ)』を実施する予定である。さらに、多様な国や地域の出身者を講師として招きたいと考えている。

22 恵那市立恵那西中学校

学 校 名	恵那市立恵那西中学校 (校長 熊崎 健一)
活動の種類・単位	奉仕(福祉) 全校生徒が取り組む活動
教育課程上の位置付け	総合的な学習の時間・特別活動

1 活動テーマ

基礎基本を身につけ 粘り強く やりぬく生徒の育成 ～自立、共生、貢献をめざして～

2 主な活動内容

(1) 学校花壇の定植やフラワーアレンジメントを通して花いっぱいの学校づくり

委員会の生徒や特別支援学級の生徒が、学校花壇や畑を利用して季節に合わせた花壇づくりや畑づくりを行った。

学校花壇では、春にマリーゴールド、ベゴニアを、秋にはピオラ、パンジーを植え、仲間と協力して取り組み、美しい花壇をつくっていった。また、フラワーアレンジメントを校内に飾っていく家庭科部の『校内花いっぱい活動』の取組と連携しながら、学校全体を花で飾り、全校の仲間が明るく前向きに生活できる学校づくりの推進を図っていった。

特別支援学級の畑づくりでは、肥料を混ぜて土をつくることから始めていった。支援学級の仲間ですら当番を決め、定植、草取り、水やりなどを継続して行いながら野菜を育てていった。夏にはキュウリ、ナス、トマトなどを収穫するとともに、秋には穫れたサツマイモで焼き芋をつくったり、冬に穫れた大根を使っておでんをつくり支援学級の生徒が販売の経験をしたりと、畑で野菜を育てるだけでなく、それを活用して様々な体験をすることができた。



▲花壇づくりのようす



▲フラワーアレンジメントのようす

(2) 生徒会主催行事を通してパラスポーツに親しむ

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、10月に予定していた体育大会を当初の予定通り行うことが難しい状況になった。そこで、密を避けながら全校生徒で創り上げる体育大会にするにはどうしたらよいかを生徒、職員が一緒になって考え、種目の変更、場所と時間の分散で開催することとした。そこで、競技種目においては、パラスポーツを取り入れながら生徒個人が選択できるようにした。この大会では『ボッチャ』を採用し、取り組む中で、生徒が種目そのものの楽しさに気付くとともに、仲間と協力して熱心に取り組む姿が生まれた。今後はさらに、『ブラインドサッカー』にも挑戦しながらパラスポーツを広く体験し、理解を深めていきたいと考えている。



▲体育大会ボッチャ競技のようす

子供たちに付いた力	<ul style="list-style-type: none"> ・花や野菜など植物に親しみ、愛情を込めて栽培する意識を高めることができた。 ・パラスポーツへの理解を深め、親しみをもって取り組むことができた。
効果	<ul style="list-style-type: none"> ・花壇の花の栽培のみならず、校内全体の植物を大切にする姿が広がってきている。 ・パラスポーツに親しみ、楽しさを味わう姿が増えてきた。
今後の方向	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍においても自分たちができることを考え、仲間と協働しながら取り組む中で、生徒一人一人の主体性を育てていく。

23 恵那市立恵那北中学校

学 校 名	恵那市立恵那北中学校 (校長 篠原 徹)
活動の種類・単位	国際理解・親善
教育課程上の位置付け	英語、総合的な学習の時間

1 活動テーマ

英語学習においてタブレット端末を活用して内発的動機付けを図り、英語コミュニケーション能力を高める。
～地域の魅力を英語で発信する地域創生・問題解決型学習 (Project Based Learning)を通して～

2 主な活動内容

全校生徒にデジタル教科書を購入し、これによって英語学習の効率を高めるとともに、外国の人とリアルなコミュニケーションの場を設けて、コミュニケーション能力の向上を図った。

- ①英語の授業において、各自のデジタル教科書を使って個に応じた音読練習を行い、自分の音読を録音・再生して発音を修正したり、対話活動をヘッドセットで録音し、文字に書き起こして発話のエラーを修正するなど新しい英語の学び方を取り入れた。
- ②SDGs の取組について、名古屋商科大学から外国人留学生達が調査のために学校を訪れる機会があったので、互いの文化や生活の様子を英語で紹介し合う交流会を行った。
- ③オーストラリア Oakey State High School とのオンライン交流会を行った。(全校生徒対象 恵那市国際交流協会後援)
両校をオンライン会議システムでつなぎ、各自のタブレット端末から、地域のよさや自分達の生活の様子を画像や映像で見せながら、英語でプレゼンテーションした。英語で質問したり、質問に答えたりする交流会を行った。
- ④東京オリンピックカヌー競技に参加するポーランドチームが近隣施設でキャンプを張ったことから、歓迎レセプションにオンラインで参加し、選手達に応援のメッセージを贈った。



▲ヘッドセットで聞きながら書き起こす



▲様々な国からの留学生達の話聞く

ポーランドチーム歓迎会へのオンラインでの参加の様子を伝える中日新聞記事(2021.7.20 付) ▲



子供たちに付いた力	<ul style="list-style-type: none"> ・英語学習においてデジタル教科書を活用することにより、必要に応じて何度も聞き直したり音読練習したりすることができ、読む・話す技能が高まった。 ・英語を使って外国の人々とコミュニケーションができたときの喜びを味わうことによって、英語がコミュニケーションツールとして役立つことが認識できた。
効果	<ul style="list-style-type: none"> ・任意の箇所を幾度でも繰り返して瞬時に再生できるデジタル教科書と、自分の発音・発話を録音できるタブレットの機能を生かした英語学習により、相乗効果が生まれ、正しい発音やイントネーションへの習熟度が高まった。 ・オンライン会議システムを使って海外の学校や留学生と英語で交流し、日本の文化や地域の魅力を発信する活動によって、英語学習への動機づけを強化することができた。
今後の方向	<ul style="list-style-type: none"> ・異文化にルーツをもつ人々と英語を使って交流する機会を定期的に確保するとともに、個対個のコミュニケーション活動に近づけられるよう、環境を整える。

24 飛騨学園 高山西高等学校

学 校 名	学校法人 飛騨学園 高山西高等学校 (校長 下屋 浩実)
活動の種類・単位	健康・安全活動—全校・委員会
教育課程上の位置付け	特別活動・生徒会活動

1 活動テーマ 免疫力を高めて、感染症を予防しよう

笑うとリラックスして自律神経が安定

2 主な活動内容

☆免疫力アップのために日々の生活の中で、意識するだけで変わってくる、ちょっとしたヒント。

＃生活習慣を変えて免疫力を上げる技 — 健康&元気に暮らすカギは ⇒ 免疫力

①一日一回は大笑いする。つくり笑いでも十分効果あり。笑う気になれなくてもOK!

「笑う門には福来たる」どんどん笑おう！**免疫力アップに驚くほど効果的！**

②体を動かすと自立神経が整う

適度な運動を行うと自然に気がまぎれます。ウォーキングや階段の昇降りなど
体を動かすとストレスの原因になっている悩みから気がそれます。

自立神経を整え、気持ちもラクに。**体を動かすことに意識が集中。**

③朝起きたら太陽を浴びる

太陽の力で体内リズムを整える。朝、目覚めたら真っ先にカーテンを開けて日光を浴びましょう。

「朝起きて、夜寝る」生活リズムをキープしよう。**体内時計を始動させよう！**

④排便のリズムをつくろう

腸のぜん動運動は、朝食後に活発になり排便が促されます。

自然な便意を促すことを、毎日の習慣に。**朝食は必ず食べて**

⑤免疫力アップするには自分をほめよう

自分をほめることで起こるいいこと **脳から幸せホルモンを出して**

○幸せホルモンが出る ○自分に自信が生まれる ○他人にやさしくなれる ○ポジティブになれる

⑥湯船に入る習慣をつける

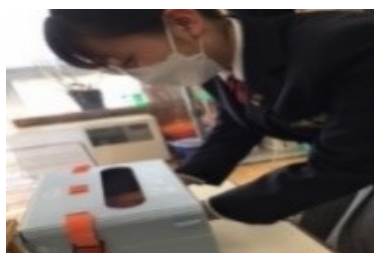
シャワーだけでは体は温まりません。寝る前にお風呂に入ってお湯(39~41℃)につかります。

ウイルスや細菌と闘う力が強まります。**シャワーですますのはNG！**

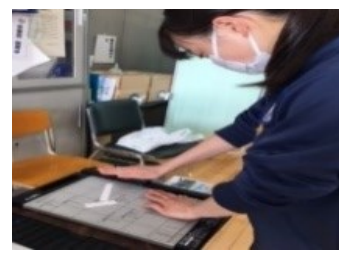
🌈🌈🌈 ストレスの発散方法の一つとして、菜を作成 🌈🌈🌈 🌈🌈🌈 手洗いチェッカーを使って体験 🌈🌈🌈🌈



▲いつも手もとにおいて、自分を励ましてくれる菜



▲保健委員が手洗いチェッカーを使って体験



※洗い残しが多いのは指先と爪の間！ 「一手間かけて」確実に洗おう

子供たちに付いた力	免疫力を高めるために意識して、行動をする。石鹼液を使い、すみずみまで丁寧な手洗いをする習慣ができた。手洗い回数も増えた。ストレスの軽減について学習した。
効果	石鹼液を使って手洗いすることの大切さを知り、予防対策を徹底した。免疫力を高める方法を身につけた。
今後の方向	今回の研究成果をもとに、生活習慣、食事、食べ方、体ケア、ストレスフリー等によって免疫力を高め、様々な感染症予防対策に力を入れ、継続して、実施する。

25 (特別支援学校) 岐阜県立揖斐特別支援学校

学 校 名	岐阜県立揖斐特別支援学校 (校長 林 正治)
活動の種類・単位	健康安全・全校
教育課程上の位置付け	特別活動 その他 (生活単元学習)

1 活動テーマ

防災教育を通して、「自分の命は自分で守る」という意識を高める。

2 主な活動内容

(1) 命を守る訓練

① 4月：火災対応訓練 (児童生徒、職員予告あり)

- ＊コロナ禍で、一斉ではなく各学級で実施。
- ・火災発生場所による2か所 (校庭と運動場) の避難経路を確認した。
- ・雨天時に備え、雨具の設置と職員への周知を図った。

② 7月：引き渡し訓練 (児童生徒、職員予告あり)

- ＊3密の防止のため、引き渡す時間に時間差を設けて実施。
- ・2か所 (校庭と運動場) を使用し、保護者と引き渡しの流れを確認した。
- ・活動助成金で購入した「コーン」を使用。
- ※係の誘導間違いを防ぐことと、悪天候でも目印になるように、保護者が持つ駐車券の色とコーンの色を同じにした。

③ 3月：土砂災害対応訓練 (職員のみ)

- ＊コロナ拡大により、3月実施予定。
- ・土砂災害対応として2、3階への垂直避難の訓練。

(2) 地震対応訓練

○7月、10月、2月 (児童生徒、職員予告なし)

- ・授業時間に訓練を実施。教室、体育館、校庭等での身を守る姿勢の確認をした。

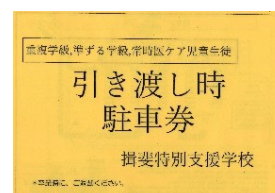
(3) 防災に関する取組

○9月 (各学部、学年、学級)

- ・火災や地震時の身を守る方法について、Youtube の映像や紙芝居等を活用して取り組んだ。

(4) 職員の取組

- ・専門家と連携し、土砂災害対応として垂直避難のマニュアルを作成した。
- ・災害時や停電時に使用する自家発電機の使い方を確認した。
- ・災害時に使用できるように、トランシーバーを使った連絡方法の確認をした。



▲ 引き渡し訓練

子供たちに付いた力	・緊急地震速報や緊急放送を聞き、児童生徒が自ら机の下で身を守ることや、頭を守る姿勢をとること等が増えてきた。
効果	・昨年度より2か月に1回程度訓練を実施したことにより、児童生徒が自ら身を守る行動につながった。 ・土砂災害への対応について職員間で情報共有をしながら、マニュアルを整備した。
今後の方向	・地震への対応について、職員が危機意識を高くもち、児童生徒が自ら身を守る行動に移せるように、声掛けや働きかけをしていく必要がある。 ・土砂災害を想定した避難訓練や引き渡し訓練を実施し、土砂災害への対応について、職員や保護者へ周知を図る必要がある。



ち
か
い

わたくしは

青少年赤十字の一員として

心身を強健にし

人のためと郷土社会のため

国家と世界のために

つくすことをちかいます

2021年度

岐阜県青少年赤十字研究推進モ二夕一校活動事例集

令和4年4月1日発行

日本赤十字社岐阜県支部

〒500-8601 岐阜市茜部中島2-9

TEL (058) 272-3561 FAX (058) 274-6938